

I . 民医連QI公開・推進事業の7年間の主なとりくみとステップアップ ー第1回民医連QI推進士セミナーの成果ー

全日本民医連QI公開・推進事業（以下「民医連QI推進事業」）は、2011年から開始して7年間の継続的なとりくみになります。この7年間の実践を踏まえ、新たなステップアップをめざして第1回民医連QI推進士セミナーを開催しました。2017年報告では、一つの節目になりますので、「民医連QI推進士セミナー」に至る主な7年間のとりくみの特徴と成果、今後の課題について報告します。

1. 「民医連QI推進事業」の目的とQIステップアップの3つの課題

「民医連QI推進事業」の目的は、「民医連QIロゴマーク」（表紙参照）に示されています。医療の質を評価する3つの側面である「Structure」、「Process」、「Outcome」（ドナベディアン考案）を円で表し、中央に「QI」を置き、とくにProcess評価が「QI」の中心となる意を込めて、Processの円を最前面に大きく配置しています。そして、土台に当たる位置に「Min-iren」と記し、組織として広くとりくみ支えて行くことをシンボライズしています。「QI」は、Quality Indicator・Improvement（医療の質指標・改善）の略称です。

「QI」を通じた改善は、「QI自体の改善」（精度管理、測定率、独自指標の設定など）、「QIによる医療の質の改善」、「QIによる民医連諸活動への貢献、民医連活動の改善」（チーム医療・経営・安全などの職員教育、民医連への信頼を高めることなど）をめざしています。

この7年間のとりくみで、「民医連QI推進事業」は、①民医連QI指標の開発と測定（V. 1～V. 3）、②測定・分析と公開の継続（「民医連QI推進事業年間報告書」発行）、③参加病院の質向上・改善の事例の蓄積、④精度の高い数値測定の改善とICT活用、⑤DPC情報を活用した指標の設定・測定（京都大学QIPとの連携）、⑥QI担当者の配置や交流・研修会の実施、⑦QI・Webシステム（データ入力・分析・公開）の開発・機能強化、⑧参加病院のQIニュースの発行・QIレビュー開催など職員への浸透の工夫、⑨日本病院会などの学会発表など成果を上げ始めています（表1）。

現在、参加登録病院は、95病院（142全病院）に広がっています。この7年間の到達点や成果は、全日本民医連QI委員会（20人・年4回定期開催）の粘り強い継続した役割の発揮とともに、専門的な外部評価委員（猪飼宏氏：山口大学医学部附属病院医療情報部准教授、橋本迪生氏：日本医療機能評価機構執行理事、新保卓郎氏：前国立国際医療研究センター教授）や「厚労省事業評価会議」の援助・指導は欠かせないものでした。その評価は、後で触れますが、厚労省「医療の質評価・公開等推進事業（以下「厚労省推進事業」）」に全国の病院団体として5回採択されその事後評価報告書で示されています。

この7年間の実践を踏まえて、「民医連QI推進事業」をさらにステップアップするための目標として次の3つをあげてとりくんでいます。

＜QIステップアップの3つの課題ー育てるQI推進事業＞

- QI指標の充実・体系化と質向上・改善の事例の蓄積
- 精度・分析力と報告率の向上ーQIシステムの機能強化とICT活用
- QI担当者（診療情報管理士）の配置・養成とQI活動の職員への浸透ー病院管理部のリーダーシップの発揮

2. 「民医連QI推進事業」の7年間の主なとりくみの特徴と成果

第1は、民医連QI指標の見直しと体系化、その定義の解釈の統一化・共有化を図り、今日の民医連QI指標V. 3に至ったことです。とくに、V. 3の指標設定に当たっては、国内外の諸団体の指標（300弱）を参考にしています。詳細は、別項参照下さい。

第2は、「厚労省推進事業」に申請・採択されたことです。このことは、参加病院を増やすとともに中間評価・最終評価書の提出などを通してこの事業の質のレベルを上げることにつながり、第三者評価会議からの事後評価報告書は、評価点・課題・疑問点が示され、激励とともに今後の課題が明確に示され有意義・効果的に働いたことです。

第3は、「QI・Webシステム」の開発・機能強化です。当初からQI指標の正確な測定とその結果を現場の改善・質向上に活かすことができるシステム構築がこの事業の成否に関わることであり、毎年QIシステムの機能強化を図り、今日の「ダッシュボード機能」の構築にまで機能を強化しています。厚労省評価会議や学会などでも「民医連QI・Webシステム」は、最も高い評価の1つになっています。民医連QI推進事業に対する職員の見える化や浸透が今後のステップアップの重要な課題です。その重要な基盤が、全日本民医連QI委員会が開発と機能強化を整備している「民医連QI・Webシステム」です。詳細は、別項参照下さい。

第4は、測定開始から、民医連QI推進事業交流会を開催し、年間報告書の報告や参加病院の経験・教訓の共有を進めてきたことです。ステップアップをめざして分科会形式の交流会を開催し、「民医連QI推進士セミナー」の開催まで至りました。そこで報告された実践事例は、この7年間で42病院まで積み重ねて重要なロールモデルになっています。今回の特集号でも掲載されています。

第5は、何よりも重要なことですが、「民医連QI推進事業」のとりくみを通じて現場・病院でとりくみが進み、医療の質・改善が「見える化」され始めていることです。参加病院は、「QIニュース」の発行や「QIレビュー」の開催など工夫を積み重ねています。毎年の実施アンケートでは、1年間の具体的な改善事例が集約されています。2017年は35病院から246改善事例が寄せられています（表1）。具体的な改善事例は、毎年の年間報告書の指標分析の中で示されています。

第6は、参加病院の広がりや指標数の増加とともに参加病院のとりくみのレベルに相違も出ており、とくに新規病院や1人兼任体制の病院への支援が求められています。そのために「医療指標の定義と解釈ーQ&A集」の発行を毎年重ねています。また、参加病院は、中小病院の現状を反映し診療情報管理士体制の改善や新規参加病院からは、指標の定義・解釈への意見などが寄せられており、専門的な内容の個別の相談や支援が欠かせません。2016年には、共通して測定が困難な指標についての「QI指標の測定方法の留意点と改善の事例集V. 1」を発行し測定改善に活かしています。

表1 民医連QI推進事業：7年間の主な経過

	参加 病院数	QI指標	主なとりくみ	厚労省事業	改善 事例数
2010年	10	トライアル指標：7領域・25指標	QI推進事業説明・研修会		
2011年	49	指標V.1：7領域・25指標	第1回QI推進事業交流会	第1回採択	
2012年	59	指標V.2：7領域・27指標	ITとQIコラボ交流会（第2回）	第2回採択	73
2013年	77		QI推進事業ステップアップ集（第3回）	第3回採択	62
2014年	85	指標V.2-1：7領域・34指標	DPC情報活用した指標設定開始		68
2015年	85		第4回QI推進事業交流会	第4回採択	100
2016年	89		「QI指標の留意点と改善事例」発行	第5回採択	186
2017年	93	指標V.3：7領域・61指標	ダッシュボード等QIシステムの機能強化 第1回QI推進士セミナー		246
2018年		厚労省「共通指標」の組み込み	2018年4月「厚労省共通指標」測定開始		

【 外部・学会発表】

- 2011年 日本医療機能評価機構「医療の質フォーラム」発表
- 2013年 日本病院学会発表
- 2013年 日本医療・病院管理学会発表
- 2014年 JAGES研究会発表
- 2016年 日本病院学会「QIシンポジウム」発表
- 2018年 第21回 日本医療情報学会「中国四国支部セミナー」（岡山市）発表

3. 「厚労省推進事業」の5回採択と第三者評価

全日本民医連は、「厚労省推進事業」に2011（平成23）年度から2017（平成29）年度で5回採択されています。2016（平成28）年度「厚労省推進事業」に係る民医連の事後評価結果は、主な内容を抜粋すると次の通りです。

【高く評価できる点(抜粋)】: 定期的な事業研修会や報告書の公開、未測定指標改善調査などを実施し、組織が一体となった改善事業を進めている、慢性期の評価指標も多く指標が充実している、大学の研究者などと連携し国際的にもできる指標群となっている、定期的な学習会でフィードバックが行われている、指標を用いて改善活動につなげている施設も多く改善のための組織文化が定着しつつある、年間報告書も非常に充実したものになっているなど。

【問題点】: 中小病院におけるQI活動のとりくみについては、指標の上昇が十分に得られていない病院もあり、組織的なサポートが必要であるなど。

【疑問点】: とくになし。

【今後のとりくみにする意見など】: 全日本民医連に加盟する病院は142施設とされている、2016(平成28)年度の協力病院が91施設(64.1%)であったことからより一層精度を上げるためにも参加病院の参加に期待したい、指標群が充実する一方で大部になっている、評価指標を組み合わせるより大きな軸で解釈ができるようにするなど国民にわかりやすくしてほしい、アカデミアと協力のもと行っていることを踏まえると学術論文などの作成も考えてほしい、QIを用いた改善活動のケースレポートなども充実してもらえると、他施設の参考になるなどです。

民医連が、「厚労省推進事業」という医療活動に関わる事業の採択を受けたことは、歴史上初めてです。厚労省第三者評価会議(松田晋哉委員長)での採択(評価員の評価総点数による採択)の特徴は、中小病院が多くQI担当者の兼務体制などのなかで「民医連QI推進事業」が組織的継続的にとりくみ着実に実践と成果を上げ始めていることです。

4. 第1回民医連QI推進士セミナーの開催「民医連QIスペシャリスト」の養成

第1回民医連QI推進士セミナーを7月22、23日に開催し、37県連から66事業所3県連事務局112人が参加しました。

今回の「QI推進士セミナー」は、「QI推進事業」の7年間の実践の蓄積をもとに企画した到達点であり、さらにQI推進事業のステップアップをめざして開催しています。2017年から3カ年計画で250人の修了者をめざしています。

「民医連QI推進士」とは、「QI(民医連・自院のQuality・Indicator/Improvement: 質指標・改善)に関する知識、考え方を身につけ、医療の質を可視化する指標を設定・測定し、分析・評価、活用(現場に適切にフィードバック)することができるスペシャリスト(全日本民医連QI委員会)」です。

「民医連QI推進士」とは、「QI(民医連・自院のQuality・Indicator/Improvement: 質指標・改善)に関する知識、考え方を身につけ、医療の質を可視化する指標を設定・測定し、分析・評価、活用(現場に適切にフィードバック)することができるスペシャリスト(全日本民医連QI委員会)」です。

今回の目的は、「データに基づく総合的な医療の質の向上・改善のプロセスを推進する基礎的スキルを身につけること」です。そのために2つのステップでプログラムを企画しました。詳細なプログラムは、表2をご覧ください。総論である野田邦子氏の講義内容が本号に掲載されています(22~26頁)。

①医療の質を可視化する指標を設定・測定し、運用できる力を身につけること。

②指標の測定の結果を分析・評価し、適切にフィードバックできる力を身につけること。

初めての試みでしたが、「実践的な内容で今後の活動の第一歩となりうるセミナーだった。グループワークと演習は模擬的によい経験になった」と多くの参加者から満足度が高い感想が寄せられています。あらためて「QIステップアップの3つの課題」の中心を担う民医連QI推進士の養成(複数以上のチーム編成)の重要性が実践的に明らかになる画期的なセミナーを実施できました。2018年も継続的に開催を確認しています。

表2 第1回民医連QI推進士セミナー 全体プログラム概要

時間帯	内容
7月22日(土)	
13:20 13:20~13:30	(10) ◆開会 ◆オリエンテーション
13:30~14:20	(50) ◆松原為人QI委員長(京都民医連中央病院、院長) ◆講義1【医療の質と指標—その測定・可視化と改善—】
14:20~15:50	(90) ◆野田邦子QI副委員長(埼玉協同病院QIセンター、副センター長) ◆演習A【指標を設計しよう】
15:50~16:00	(10) ◆担当: 野田邦子氏、鈴木隆司氏、鶴谷拓雄氏
16:00~16:50	(50) ◆休養 ◆講義2【測定システムの確立とデータの信頼性】
16:50~18:30	(100) ◆根本将司氏(汐田総合病院、診療情報管理士) ◆福西茂樹氏(兵庫総合病院、診療情報管理士) ◆演習B【測定した結果をじっくり見てみよう】
	◆担当: 根本将司氏、福西茂樹氏、木下和寛子氏
7月23日(日)	
8:30~9:20	(50) ◆講義3【データの分布や変化の定量的評価】
9:20~9:30	(10) ◆猪飼宏氏(山口大学、医学部附属病院、医療情報部、准教授)
9:30~10:15	(45) ◆休養 ◆演習C【指標事例を具体的に分析・評価しよう】
10:15~10:25	(10) ◆担当: 三浦真美氏、猪飼宏氏、松崎幹雄氏
10:25~11:15	(50) ◆休養 ◆講義4【現場を動かすQI—フィードバック・QCストーリー—】
11:15~12:50	(95) ◆小林美恵氏(千葉大学、医療の質向上本部、医療安全管理部、地域医療連携部、特命病院教授) ◆演習D【QIプレゼンテーションの作成と発表】
12:50~13:00	(10) ◆担当: 三浦真美氏、丸山俊太郎氏、中西智美氏、東久保隆氏
13:00	◆まとめ ◆富山陽介QI副委員長(坂総合病院、副院長) ◆閉会

おわりに「医療・介護活動の2つの柱」の前進と「民医連QI推進士」の配置・養成

「医療・介護活動の2つの柱」が民医連運動の基軸として前進するためには、「民医連QI推進事業」をさらにふさわしくとりくみを強化していく必要があります。とくに、「民医連QI推進事業」の全病院への広がりや医療の質の改善・向上に結びつく前進が求められます。その重要な基盤は、この7年間で蓄積されています。時を同じく、DPC病院への新たなQI活動・公開の制度化の動きがあります(DPC病院の係数化)。そのためにも医師の参加や民医連QI推進士の配置・養成が極めて重要であることをあらためて強調したいと思います。

【2017年度の主な活動】

〈2017年〉

○2017年4月10日(月)ダッシュボード(貴病院の注目標標)、分析ベンチマーク機能の追加

○2017年5月10日(水)「民医連QI推進事業2016年年間報告書(詳細版・概要版)」の一般公開(全日本民医連職員HP)

○2017年5月13日(土)第5回QI委員会(第5回医療指標評価委員会)の開催

○2017年5月17日(水)「民医連QI推進事業・指標の定義解釈Q&A.V.7-3」の発行

○2017年6月26日(月)第4回QI委員会事務局会議の開催

○2017年7月21日(土)~22日(日)全日本民医連QI推進事業2016年報告会、全日本民医連第1回QI推進士セミナーの開催

○2017年9月30日(土)第6回QI委員会(第6回医療指標評価委員会)の開催

○2017年10月4日(水)「民医連QI推進事業・指標の定義解釈Q&A.V.7-4」の発行

○2017年10月27日(金)閲覧用共通ユーザー機能の追加

○2017年10月27日(金)「民医連QI推進事業2017年第1四半期報告書」の一般職員公開(全日本民医連職員HP)

○2017年11月2日(木)「民医連QI推進事業2017年アンケート」の実施

○2017年12月9日(土)第7回QI委員会(第7回医療指標評価委員会)の開催

○2017年12月14日(木)「民医連QI推進事業・指標の定義解釈Q&A.V.7-5」の発行

○2017年12月27日(水)「民医連QI推進事業2017年上半期報告書」の一般職員公開(全日本民医連職員HP)

〈2018年〉

○2018年2月17日(土)第8回QI委員会(第8回医療指標評価委員会)の開催

○2018年3月6日(火)「民医連QI推進事業・指標の定義解釈Q&A.V.8-1」の発行

○2018年3月24日(土)第21回 日本医療情報学会「中国四国支部セミナー」(岡山市)発表

○2018年3月29日(木)「民医連QI指標V.3-1」へ更新